

共助

く近隣の人と顔の見える関係を

災害が起きたとき、いちばんに手を差し伸べてくれるのは、顔と名前を知っているご近所さんかもしれません。自分や家族の命を守る「自助」と併せて、地域のつながりで支え合う「共助」を日頃から育てておくことが、命と暮らしを守る大きな力になります。共助は特別な活動ではなく「あいさつ」「ちよつとしたお手伝い」「困ったときに助け合う気持ち」から始まります。誰もが今日からできる「共助のヒント」をご紹介します。小さな一歩が、地域の大きな安心につながります。



●地域でできる「共助の実践例」

①声掛け・あいさつから始まる「共助力」

「おはようございます」「暑いですね」など日常のあいさつが、地域のつながりを育てます。顔の見える関係性を築いておくことで、災害時にすぐに安否確認や助け合いが行いやすくなります。

②自主防災活動に参加しよう

地域で実施される自主防災活動や訓練は、災害時に何をすべきか、誰がどんな支援を必要としているかを知る貴重な機会です。参加することで様々な経験を行うことができ、いざというときに慌てず行動することがができます。

③見守りで地域の安心を広げよう

高齢者や一人暮らしの方、小さな子どもがいる家庭など、少しの見守りが安心につながる世帯があります。特別な役割でなくても「あれ?」と思ったら声を掛ける勇気が、命を

守ることにつながります。日常的ちよつとした気付きが「共助」の一歩です。

④近所の防災マップ作り

自分の住む地域の危険箇所や避難場所を、地図に書き込みながら確認する「防災マップ作り」は、とても効果的な共助の取り組みです。

さらに、過去の災害経験を知っている人の話を聞きながら行うことで、地域ならではの災害リスク（崖・川・狭い道など）を把握することができます。

⑤避難支援が必要な方の把握と支援体制を考えよう

地域には、避難時に支援を必要とする方がいます。避難行動要支援者名簿に基づき「誰がどの世帯をサポートするか」を事前に話し合っておくと、いざというとき混乱を防ぐことができます。助ける側・助けられる側、双方が信頼関係を気付いておくことが、共助の力になります。

きいちゃんの災害避難ゲーム

「きいちゃんの災害避難ゲーム」とは、災害時の迅速な避難行動や日頃からの備えの重要性、円滑な避難所運営のために必要となる協力体制などについて、楽しみながら実践的に学ぶことができる和歌山県オリジナルの防災学習ツールです。

自主防災組織の訓練や団体などの防災研修に活用できるように、町でも10セット用意していますので、積極的にご利用ください。利用をご希望の方は、総務課（吉備庁舎）までお問い合わせください。

防災について学ぼう！

